

兵庫県のゲンゴロウ類目録 (1)

森 正人¹⁾

兵庫県内のゲンゴロウ類については、故)高橋寿郎氏が自ら整理した「兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(1)～(3)」(1995～1996)に基づいて県内目録を作成し(高橋寿郎, 1997), ムカシゲンゴロウ科1種, コツブゲンゴロウ科3種, ゲンゴロウ科43種を記録している。その後, 森正人・北山昭(1993)は具体的なデータを伴わない分布表で46種を, その改訂版第2刷(森・北山, 2007)では49種を県内から記録した。それ以降, いくつかの追加種があり, また分類の変更や学名変更もあった。さらに近年, ゲンゴロウ類を含む水生昆虫全般について, 減少が著しいことから, これまでの記録と筆者や知人等が採集した標本データを整理して, 現時点における兵庫県内の生息種とその記録を残しておきたい。

分類や学名・和名の扱いは原則として「日本昆虫目録 第6巻鞘翅目(第1部)」(2022)に, 配列は「改訂版 図説日本のゲンゴロウ」に準拠した。

掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け, 文献記録については記載された県内の記録地名と出典情報を年代順に明記した。標本記録については, 筆者が実見したものや手許にある県内標本に加えて, 知人から提供された標本やデータを整理し, 原則1産地1例として, 採集頭数・採集地・採集データ・採集者を明記した。採集者については, 筆者以外のものは明記したが, 筆者採集のものはこれを省略した。生息環境や生態情報, 全国分布, 基産地情報などについても知り得た範囲で記述した。

今回の報告はコツブゲンゴロウ科からゲンゴロウ科のツブゲンゴロウ亜科までを整理し, 残りは次回に報告予定である。

各種解説

コツブゲンゴロウ科 Family Noteridae

以前, ムカシゲンゴロウ科として扱われていたものは, ここに含められた。日本産は3亜科に分かれ, 以下の2亜科が兵庫県に分布する。

コツブゲンゴロウ亜科 Subfamily Noterinae

チビコツブゲンゴロウ族 Tribe Neohydrocoptini

日本産は以下の1属。

チビコツブゲンゴロウ属 Genus *Neohydrocoptus*

日本からは3種が知られており, 県内産は以下の2種。

1. キボシチビコツブゲンゴウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859)

【文献記録】加西市 [岡野良祐・西本雄一郎, 2021]

【標本記録】6exs., 加西市, 3-V-2021, 1ex 死体, 同所, 5-IX-2021.

日本では愛知県知多半島から初めて記録された珍しい種類で, その後, 茨城県, 千葉県, 静岡県, 愛知県, 三重県, 奈良県, 京都府, 岡山県, 広島県, 山口県, 香川県, 高知県, 福岡県, 長崎県, 宮崎県で記録または採集されているが, 生息地の数は大変少ない。兵庫県ではこれまで, 記録や情報が全く無かったが, 最近になってようやく発見記録された。本種の生息地は植生が豊かな中規模止水域で泥深い立地環境であることが多く, 県内の生息地もこの範疇にあった。本種は抽水植物の根際付近の深い泥中から得られることが度々あり, 腹端部を植物体に差し入れて呼吸している可能性がある。実際に Kudo et al. (2010) は飼育下での観察例を報告している。時期によってはほとんど水中に遊泳することがなく, 確認が難しい種類ではあるが, 反面, 外来の肉食魚やアメリカザリガニの被食影響を受けにくいとも考えられる。環境省レッドリスト(2020)では絶滅危惧IB類(EN), 兵庫県RDB(2022)では新たにAランク(絶滅危惧I類相当)に選定・評価されている。

2. ムモンチビコツブゲンゴウ *Neohydrocoptus* sp.

【文献記録】加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]

【標本記録】2exs., 加西市青野ヶ原, 23-VIII-1993; 2exs., 加西市野田池, 6-V-2002.

加西市と小野市にまたがる青野ヶ原からはじめて報告された種類で, その後は近畿地方各地や東海地方の一部, さらに四国, 九州, 屋久島からも記録されているが, 生息地は少なく局地的である。県内でも産地情報は増えていない。微小な種で動きも鈍いので確認が難しい種である。環境省レッドリスト(2020)では学名未決定のまま絶滅危惧II類(VU)に選定されている。

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪株式会社

コツブゲンゴロウ族 Tribe Noterini

日本では2属が知られており、いずれも兵庫県に分布している。

コツブゲンゴロウ属 Genus *Noterus*

日本からは3種が知られているが、県内産は以下の1種。

3. コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873

【文献記録】芦屋, 神戸市多井畑 [関公一, 1945a]; 宝塚市大原野 [芦田久, 1993]; 加西市青野ヶ原, 三田市木器, 村岡町祖岡, 芦屋市イモリ池, 三田市大磯, 猪名川町内馬場, 村岡町兎和野高原, 宝塚市 [初宿成彦, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田習・中安慎太郎, 2011]; 兵庫県西部 [市川憲平・大庭伸也, 2015].
【標本記録】12ex, 美方郡新温泉町上山高原, 4-IX-2023; 3exs., 美方郡香美町村岡区祖岡, 22-X-1994; 12exs., 豊岡市日高町神鍋高原, 7-IX-2021; 1ex, 養父市杉ヶ沢高原, 4-IX-2023; 5exs., 神崎郡神河町砥峰高原, 29-V-1987; 3exs., 神崎郡福崎町, 29-V-1987; 20exs., 小野市福甸町, 29-IV-1997; 6exs., 加西市田水池, 8-XI-2000; 5exs., 宝塚市佐曾利, 17-VIII-1994; 12exs., 三田市木器, 19-IV-1987; 5exs., 明石市大久保, 24-V-1987; 15exs., 神戸市北区長尾町宅原, 8-V-1987; 17exs., 神戸市北区八多町, 18-V-1989; 3exs., 神戸市北区有野町, 2-X-1993; 18exs., 神戸市北区淡河町野瀬, 9-IV-2023; 3exs., 神戸市東灘区六甲アイランド, 12-V-2022; 6exs., 洲本市五色町, 23-V-1991.

北海道から南西諸島まで広く分布し、生息地での個体数も多い。県内でも全域に広く分布しているが、最近では少しずつ生息地が減少しているような気がする。

ツヤコツブゲンゴロウ属 Genus *Canthydrus*

日本からは2種が知られており、県内産は以下の1種。

4. ムツボシツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus politus* (Sharp, 1873)

【文献記録】Hiogo[D.Sharp, 1873]; Maiko, Takasago[M. Takizawa, 1932a]; 垂水 [関公一, 1945a]; 神戸市多井畑 [大倉正文, 1955]; 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 加西市青野ヶ原 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】24exs., 加西市青野ヶ原, 23-VIII-1993; 9exs., 小野市青野ヶ原, 29-IX-2013; 23exs., 小野市青野ヶ原, 19-VIII-2023; 21exs., 加古川市今池, 13-IX-1992.

本州の東海地方以西、四国、九州、トカラに分布するが、生息地は少なく局地的。生息地での個体数は一般的に多い。県内での分布は現在では播州平野の一部に限られるが、古くは阪神間での記録もある。加古川市にあった生息池は、宅地化造成によって消失した。青野ヶ原では近年の調査で生息の維持が確認されている。環境省レッドリスト(2020)では絶滅危惧Ⅱ類(VU)とランクが比較的高く、兵庫県RDB(2022)でもBランク(絶

滅危惧Ⅱ類相当)に評価されている。

ムカシゲンゴロウ亜科 Subfamily Phreatodytinae

ムカシゲンゴロウ族 Tribe Phreatodytini

ムカシゲンゴロウ属 Genus *Phreatodytes*

日本からは7種が知られており、県内産は以下の1種である。

5. ムカシゲンゴロウ *Phreatodytes relictus* S.Ueno, 1957

【文献記録】Aioi city, Yatabe in Taishi-cho[S.Ueno, 1957]; 姫路市飾西 [森正人・北山昭, 1993, 2007].

日本では兵庫県と京都府の一部地域で、地下水系から得られている。環境省レッドリスト(2020)では情報不足(DD)とされている。兵庫県RDB(2022)では要調査の評価。

ゲンゴロウ科 Family Dytiscidae

日本産は現在7亜科に区分され、兵庫県にはそのすべてが分布している。

ケシゲンゴロウ亜科 Subfamily Hydroporinae

日本は6族で、兵庫県産は以下の5族である。なお、この亜科はナガケシゲンゴロウ亜科と和名表記されることがある。

ケシゲンゴロウ族 Tribe Hyphydrini

日本産は4属で、兵庫県では次の2属が分布している。
キボシケシゲンゴロウ属 Genus *Allopachria*

日本産は2種で、県内産は以下の1種。

6. キボシケシゲンゴロウ *Allopachria flavomaculata* (Kamiya, 1938)

【文献記録】武庫川 [関公一, 1945a]; 氷上郡柏原川上流 [山本義丸, 1958]; 柏原 [佐藤正孝, 1958]; 神戸市道場 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 神戸市道場 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】4exs., 美方郡新温泉町藤尾(久斗川), 3-IX-2023; 20exs., 豊岡市日高町神鍋溪谷(稲葉川), 15-IX-2020; 3exs., 宍粟市波賀町(引原川), 19-VIII-2010; 2exs., 宍粟市波賀町赤西溪谷(赤西川), 5-VII-2009; 6exs., 朝来市山東町与布山, 21-VII-2021, 北山健司採集; 7exs., 篠山市鑿市ダム上流(畑川), 31-VIII-2003; 3exs., 神戸市北区道場町生野(船坂川支流), 26-V-1991.

北海道、本州、四国、九州、大隅諸島に分布する。低山地から山地にかけての清流に生息している。県内での生息河川は多くないが調査不足かも知れない。キボシゲンゴロウは異名。環境省のレッドリスト(2020)では情報不足(DD)、兵庫県RDB(2022)では要調査に評価されている。

ケシゲンゴロウ属 Genus *Hyphydrus*

日本産は5種1亜種が知られており、県内産は以下

の2種.

7. ヒメケシゲンゴロウ *Hyphydrus laeiventris* Sharp, 1882

【文献記録】三原郡福良 [高橋寿郎, 1998]; 神戸市八多 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】1ex, 三木市吉川町奥畑, 19-XI-1994; 20exs. 三木市吉川町, 16-V-1994; 10exs., 神戸市北区八多町, 7-VIII-1993; 2exs., 神戸市北区八多町上小名田, 5-V-2019; 2exs., 神戸市北区山田町藍那, 30-IV-1997; 4exs., 神戸市北区大沢町, 3-V-1987; 1ex, 神戸市北区八多町上小名多, 5-V-2019; 7exs., 洲本市五色町先山, 23-V-1991; 3exs., 南あわじ市南淡町, 31-X-1985, T. Matsumoto 採集.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布するが生息地は多くない. 県内の記録は南部地域に限られ, 淡路島からも確認されている. 本州北部と北海道の個体群は別亜種アラメケシゲンゴロウ *ssp. tsugaru* Nakane, 1993 として区別されているが, 分布の境界は定かではない. 兵庫県産は基亜種となる. Watanabe (2020) は本種の飼育実験により, 幼虫の餌としてのカイミジンコが本種の生育に十分な栄養を備えることを報告している. 環境省のレッドリスト (2020) では絶滅危惧Ⅱ類 (VU) とされている.

8. ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus* Sharp, 1873

【文献記録】Hiogo [D. Sharp, 1873]; Takasago [M. Takizawa, 1932b]; 武庫川, 住吉村, 猪名川, 多井畑 [関公一, 1945a]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 川西市大和 [仲田元亮, 1978]; 猪名川町木間生 [仲田元亮, 1979]; 宝塚市玉瀬, 売布ガ丘 [芦田久, 1993]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 神戸市鳥原, 山の街, 妙法寺, 多井畑, 白川, 押部谷木見 [高橋寿郎, 1997]; 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 神戸市八多町, 加西市青野ヶ原, 三原郡緑町広田~長田, 家島町西島, 神戸市垂水, 神戸市東垂水, 神戸市山の街, 西宮市甲東園, 川西市芋生, 川西市大和, 猪名川町下阿古谷, 猪名川町民田, 猪名川町木間生, 北淡町育波, 宝塚市大原野 [初宿成彦, 2011]; 兵庫県西部 [市川憲平・大庭伸也, 2015].

【標本記録】2exs., 美方郡香美町村岡区祖岡, 22-X-1994; 1ex, 佐用郡佐用町, 21-IV-1991; 7exs., 三木市吉川町, 23-IX-1996; 2exs., 三田市木器, 19-IV-1987; 1ex, 明石市大久保, 24-V-1984; 3exs., 宝塚市佐曾利, 17-VII-1994; 1ex, 宝塚市切畑奥ンベツ, 14-III-2010, 下野誠之採集; 3exs., 神戸市六甲山上かわうそ池, 9-V-1987; 1ex, 神戸市北区山田町藍那, 30-IV-1997; 10exs., 神戸市北区八多町, 21-II-1987; 19exs., 神戸市北区大沢町, 18-XI-1990.

北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島の一部に広く分布する. 1990年代まではごく普通に見られたが, 2000年頃以降になって急速に減少したことを踏まえて, 環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に, 兵庫県 RDB (2022) でも新たに C ランク (準絶滅危惧相

当) に選定された. 県内では淡路島を含む南部地域の記録が多いが, 中北部からの記録も少ないながらある. 普通種だった故に過去の記録や標本は意外と少ない. 初夏のころに新成虫を多く確認している. 林 (2020) は, 本種幼虫の頭部突起に着目し, この突起がカイミジンコを効率的に捕食することに機能していることを報告している.

マルケシゲンゴロウ族 Tribe Hydrovatini

マルケシゲンゴロウ属 Genus *Hydrovatus*

近年, 本属の分類研究が進み, 現在の日本産本属は 9 ~ 10 種に増えている. 兵庫県では以下の 6 種が確認された.

9. ヤギマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus yagii* Kitayama, Mori et Matsui, 1993

【文献記録】Aonogahara Kasai City [Kitayama, Mori & Matsui, 1993]; 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007].

【標本記録】15exs., 加西市青野ヶ原, 10-V-1992.

兵庫県加西市と奄美大島, 石垣島, 西表島の標本を基に記載された種類で, 正基準産地は加西市青野ヶ原である. 学名の種小名及び和名は本種を初めて発見した八木剛氏に因んでいる. 日本では本州西部と四国, 九州で局地的に記録され, 南西諸島では個体数が比較的多い. 兵庫県内での分布は播州平野に限られている. 環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に, 兵庫県 RDB (2022) では A ランクに選定されている.

10. オニギリマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus onigiri* Watanabe & Biström, 2022

【文献記録】猪名川町木間生 [仲田元亮, 1979] (*H. adachii* として記録); 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 加西市青野ヶ原 [初宿成彦, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田習・中安慎太郎, 2011]; 兵庫県西部 [市川憲平・大庭伸也, 2015] (以上はマルケシゲンゴロウ, *H. subtilis* として記録); Aonogahara, Ono-shi, Aonogahara, Kasai-shi [Watanabe & Biström, 2022] (以上は *H. onigiri* で記録).

【標本記録】1ex, 佐用郡佐用町西新宿, 6-VII-2014, 市川憲平採集; 7exs., 神崎郡福崎町, 29-V-1987; 2exs., 加古川市今池, 6-VI-1992; 1ex, 加西市田水池, 8-XI-2000; 2exs., 加西市青野ヶ原, 5-V-1990; 1ex, 宝塚市佐曾利, 17-VII-1994; 3exs., 神戸市北区八多町, 7-VIII-1993; 1♂, 神戸市北区淡河町野瀬, 9-IV-2023; 4exs., 神戸市北区淡河町ため池, 1 6-IX-2023; 3exs., 神戸市北区淡河町 (淡河川), 14-IX-2024; 2exs., 洲本市五色町, 23-V-1991.

本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布するマルケシゲンゴロウ *H. subtilis* Sharp, 1882 と認識されていた種は, 別の未記載種であることが Watanabe & Biström (2022) によって確認され, 新たに上記の新種として記



1. キボシチビコツブゲンゴロウ.



2. ムモンチビコツブゲンゴロウ.



3. コツブゲンゴロウ.



4. ムツボシツヤコツブゲンゴロウ.



5. ムカシゲンゴロウ.



6. キボシケシゲンゴロウ.



7. ヒメケシゲンゴロウ.



8. ケシゲンゴロウ.



9. ヤギマルケシゲンゴロウ.
(paratype)



10. オニギリマルケシゲンゴロウ.



11. サメハダマルケシゲンゴロウ.



12. コマルケシゲンゴロウ.



13. アマミマルケシゲンゴロウ.



14. オオマルケシゲンゴロウ.



15. チャイロチビゲンゴロウ.



16. チビゲンゴロウ.



17. マルチビゲンゴロウ.



18. ナガマルチビゲンゴロウ.



19. ヒメシマチビゲンゴロウ.



20. ゴマダラチビゲンゴロウ.



21. メクラゲンゴロウ.



22. ミウラメクラゲンゴロウ.



23. ツブゲンゴロウ.



24. コウベツブゲンゴロウ.



25. ニセコウベツブゲンゴロウ.



26. ルイスツブゲンゴロウ.



27. サザナミツブゲンゴロウ.



28. シャープツブゲンゴロウ.



29. キボシツブゲンゴロウ.

載された。これを踏まえて、標本については再度同定し、上記の新種であることを確かめたが、文献記録の一部についての標本の確認ができていない。環境省のレッドリスト (2020) では「マルケシゲンゴロウ」が準絶滅危惧 (NT) に選定されている。

1 1. サメハダマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus stridulus* Biström, 1997

【標本記録】2♂, 加古川市今池, 13-IX-1992.

本種は稲畑 (2016) が奄美大島, 沖縄島, 石垣島, 西表島, 与那国島から日本初記録として報告したもので、その後本州では埼玉 (亀沢・渡部, 2018), 茨城・群馬 (佐野ほか, 2019), 千葉 (中村ほか, 2023), 愛知 (戸田, 2017), 富山 (澤田ほか, 2022), 石川 (渡部ほか, 2016), 福井 (渡部・保科, 2016), 滋賀 (村上, 2024), 岡山 (末長ほか, 2017) の各県から記録されている。兵庫県からの記録は無く、これが初記録となる。上記標本は加古川市内の今池から2頭だけ採集されたもので、いずれもテネラル個体であったことからマウントされず放置されていたもの。本種が確認された今池は前述のムツボシツヤコツブゲンゴロウやエチゴトックリゴミムシが多く生息する良い環境の池であったが、発見直後に埋め立てられた。

1 2. コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1860

【文献記録】氷上郡 [山本義丸, 1958]; 宝塚市大原野松尾 [芦田久, 1993]; 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 加西市青野ヶ原, 五色町鮎原, 猪名川町下阿古谷, 猪名川町内馬場, 猪名川町木間生 [初宿成彦, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田習・中安慎太郎, 2011].

【標本記録】3exs., 加古川市今池, 6-VI-1992; 3exs., 加古川市八幡, 28-V-2010; 10exs., 加西市青野ヶ原, 10-V-1992; 2exs., 三木市吉川町奥畑, 19-XI-1994; 6exs., 三田市下相野, 20-V-1993; 4exs., 神戸市北区大沢町, 9-V-1992; 2exs., 神戸市北区八多町, 24-V-1987; 2exs., 神戸市西区神出町, 5-VII-2014, 市川憲平採集.

日本では本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布する。前種と同様に兵庫県内での分布も広そうであるが記録は多くない。環境省レッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に選定されている。

1 3. アマミマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus seminarius* Motschulsky, 1860

【文献記録】神戸市八多町, 神戸市大沢町 [岡田亮平・渡部晃平・森正人・稲畑憲昭, 2020].

【標本記録】3exs., 神戸市北区大沢町, 9-V-1992(報告済).

日本では奄美大島をはじめ南西諸島だけに分布する

とされていたが、最近になって岡田ほか (2020) により本州にも分布することがわかった。兵庫県でも古い標本が確認されたが、最近の情報はない。環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT), 兵庫県 RDB(2022) でも生息状況を調査するため要調査のカテゴリーに選定された。

1 4. オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* Sharp, 1882

【文献記録】三田市, 19670606, S. Ito. [神奈川県立生命の星・地球博物館, 1995].

日本では本州西部から四国, 九州, 南西諸島に広く分布するが、生息地は少なく局地的。県内では三田市の古い標本記録があるが、筆者は生息を確認することができていない。環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) とされている。標本画像は奈良県産。

チビゲンゴロウ族 Tribe Bidessini

日本産は4属で、兵庫県産は以下の3属。

チャイロチビゲンゴロウ属 Genus *Allodessus*

1 5. チャイロチビゲンゴロウ *Allodessus megacephalus* (Gschwendtner, 1931)

【標本記録】4exs., 姫路市的形, 27-IX-1989; 1ex, 姫路市的形町福泊, 13-VII-2017, 脇村涼太郎採集.

日本では本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布する。海岸線に沿って生息している。県内で確認できた生息地は少ない。

チビゲンゴロウ属 Genus *Hydroglyphus*

日本産は6種、兵庫県産は以下の1種だけ。

1 6. チビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* (Sharp, 1873)

【文献記録】神戸本山村, 猪名川, 垂水 [関公一, 1945a]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 洲本市安平町 [堀田久, 1959]; 川西市大和, 笹部 [仲田元亮, 1978]; 宝塚市香合新田 [芦田久, 1993]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 宝塚市, 神戸市山の街, 白川, 谷上, 太山寺, 三木市細川, 加西市畑, 小野市来住町, 東条町森, 吉川町, 龍野市神岡町 [高橋寿郎, 1997]; 洲本市三熊山 [高橋寿郎, 1998]; 加西市青野ヶ原, 神戸市北区大沢町, 西宮市甲山, 神戸市東垂水, 赤穂市渦潮, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町下阿古谷, 猪名川町内馬場, 猪名川町木間生 [初宿成彦, 2011]; 豊岡市祥雲寺 [牧田習・中安慎太郎, 2011]; 兵庫県西部 [市川憲平・大庭伸也, 2015]; 上郡町 [大貝秀雄, 2018]; 姫路市北原 [檀野将平, 2022].

【標本記録】3exs., 美方郡香美町村岡区祖岡, 22-X-1994; 2exs., 豊岡市日高町神鍋, 7-IX-2021; 1ex, 佐用郡佐用町船越, 27-VII-2019, 脇村涼太郎採集; 3exs., 赤穂市福浦, 6-VI-2021; 2exs., 赤穂市真殿千種川, 12-XI-2017; 8exs., 赤穂市坂越千種川,

25-VIII-2018; 2exs., 姫路市的形, 27-IX-1989; 4exs., 小野市来住町, 4-I-2020; 7exs., 小野市青野ヶ原, 12-XI-2022; 8exs., 東条市畑, 29-I-2020; 1ex, 加古川市権現湖, 3-V-2009; 3exs., 加西市青野ヶ原, 23-VIII-1993; ; 5exs., 加西市網引町, 19-X-2014; 1ex, 加東市高岡, 12-VI-2016, 渡部晃平採集; 3exs., 加古郡稲美町南場池, 10-VI-2012; 6exs., 加古郡稲美町加古大池, 30-XI-2008; 1ex, たつの市御津町中島, 18-VII-2020, 脇村涼太郎採集; 6exs., 三田市上野, 4-IV-1987; 2exs., 三田市福島, 26-III-2023; 15exs., 宝塚市西谷, 24-II-2020; 5exs., 神戸市北区淡河町野瀬, 8-VIII-2015; 4exs., 神戸市北区八多町, 22-III-1987; 2exs., 姫路市家島町家島, 6-IV-2019; 2exs., 南あわじ市阿万塩屋町, 22-IX-2018, 脇村涼太郎採集; 1ex, 洲本市五色町, 23-V-1991.

北海道から本州, 四国, 九州, トカラまで広く分布し, 個体数も多い. 県内でも生息数は多く淡路島や家島などの島嶼部からも広く確認されている.

マルチビゲンゴロウ属 Genus *Leiodytes*

日本産は4種, 兵庫県では以下の2種が分布している. ホソマルチビゲンゴロウ *L.miyamotoi* は京都府木津川から記録されているが兵庫県からの情報は無い.

17. マルチビゲンゴロウ *Leiodytes frontalis* (Sharp, 1884)

【文献記録】神戸本山村, 多井畑 [関公一, 1945a]; 宝塚市内, 三木市細川 [高橋寿郎, 1997]; 加西市青野ヶ原, 五色町鮎原 [初宿成彦, 2011]; 兵庫県西部 [市川憲平・大庭伸也, 2015].

【標本記録】8exs., 神崎郡神河町峰山高原, 4-XI-2013; 3exs., 佐用郡佐用町西新宿, 6-VII-2014; 5exs., 赤穂市真殿 (千種川), 12-XI-2017; 9exs., 赤穂郡上郡町上郡橋 (千種川), 3-XI-2014; 18exs., たつの市御津町 (揖保川), 19-VIII-1994; 3exs., たつの市揖保川町 (揖保川), 13-VIII-1994; 2exs., たつの市揖保川町黍田, 23-VI-2019, 脇村涼太郎採集; 20exs., 加西市青野ヶ原, 15-III-1992; 31exs., 加東市社町久米, 29-IV-1997; 2exs., 加東市高岡, 12-VI-2016, 渡部晃平採集; 6exs., 小野市女池, 29-VI-2014; 21exs., 小野市青野ヶ原, 18-VIII-2023; 5exs., 姫路市林田町中構, 23-VIII-2014; 6exs., 加古川市平荘町中山, 6-IX-2014; 2exs., 三木市吉川町奥畑, 19-XI-1994; 5exs., 三田市下相野, 21-V-1993; 5exs., 三田市木器, 23-IV-1990; 8exs., 三田市加茂千丈寺湖, 11-V-2019; 2exs., 三田市小柿, 18-VIII-2019; 4exs., 三田市青野ダム, 16-III-2014; 3exs., 三田市福島, 26-III-2023; 4exs., 宝塚市玉瀬, 26-IX-2010; 5exs., 宝塚市大原野, 27-IX-2009; 7exs., 宝塚市佐曾利, 17-VII-1994; 9exs., 神戸市北区八多町, 18-V-1989; 1ex, 神戸市北区八多町上小名田, 5-V-2019; 3exs., 洲本市五色町先山, 23-V-1991.

日本では本州, 四国, 九州に広く分布している. 県内でも中南部での記録が多く, 生息地での個体数も一般的に多いが, 環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に選定されている.

18. ナガマルチビゲンゴロウ *Leiodytes kyushuensis* (Nakane, 1990)

【文献記録】10exs., Takarazuka, Hyogo, 19-IV-1958, M. Goto leg. [林成多・初宿成彦, 2003].

日本では本州と九州に分布しているが, 生息地は限られている. 県内では上記の古い標本が知られているだけである. 森 (2013) は大阪府阪南市における本種生息地の環境について, 水際植生が全く無い環境で, 水際の岩盤とその上に薄く堆積した砂礫の間隙に生息していることを報告している. 標本画像は大阪府産.

ナガケシゲンゴロウ族 Tribe *Hydroporini*

日本産は3属で, 兵庫県では以下の2属.

シマチビゲンゴロウ属 Genus *Nebrioporus*

日本産は4種, 兵庫県産は以下の1種.

19. ヒメシマチビゲンゴロウ *Nebrioporus nipponicus* (Takizawa, 1933)

【文献記録】武庫川, 瓦木村, 逆瀬川 (コシマチビゲンゴロウとして) [関公一, 1945a]; 加西市畑 [高橋寿郎, 1997]; 宝塚, 武庫川, 甲東園 [林成多・初宿成彦, 2003]; 西宮市甲山大橋, 西宮市甲東園, 宝塚市武庫川 [初宿成彦, 2011].

本州と四国の河川清流に生息している. 過去の記録では中南部の河川で確認されているが, 最近の記録は無い. 調査が不足していると考えられる. 標本画像は滋賀県産. 兵庫県 RDB(2022) では要調査のカテゴリー.

ゴマダラチビゲンゴロウ属 Genus *Neonectes*

20. ゴマダラチビゲンゴロウ *Neonectes natrix* (Sharp, 1884)

【文献記録】氷上郡佐治 [山本義丸, 1958]; 青垣町西芦田加古川 [八木剛, 2000]; 新温泉町 [森正人・西野洋樹, 2022b]

【標本記録】3exs., 丹波市青垣町 (佐治川), 10-VIII-1995; 5exs., 丹波市氷上長野 (葛野川), 19-VIII-2006; 3exs., 美方郡新温泉町 (久斗川), 22-X-2022, 西野洋樹採集 (報告済).

北海道と本州, 四国の河川清流に生息している. 県内の記録は少ないが, 現在でも生息している. 兵庫県 RDB(2022) では要調査の評価である.

族不明 (以下の属は族の扱いが不確実).

メクラゲンゴロウ属 Genus *Morimotoa*

日本産は5種, 兵庫県では以下の2種が記録されている.

21. メクラゲンゴロウ *Morimotoa phreatica* Ueno, 1957

【文献記録】Yatabe, Aioi, Himeji [S.Ueno, 1957]; 姫路市飾西 [森正人・北山昭, 1993].

【標本記録】2exs., 姫路市飾西, 29-XI-1992, 北山昭採集.

兵庫県地下水系から知られている。既知産地は姫路市, 相生市, 揖保郡太子町のみ。環境省のレッドリスト (2020) では情報不足 (DD) の扱い, 兵庫県 RDB(2022) でも要調査の評価となっている。

2 2. ミウラメクラゲンゴロウ *Morimotoa miurai* Ueno, 1957

【文献記録】Kaibara [S.Ueno, 1957]; 氷上郡柏原高校構内の井戸 [山本義丸, 1958].

兵庫県と京都府の地下水系から知られている。県内の既知産地は柏原町のみ。前種 *M.phreatica* の亜種として記載されたが, Yanagi et Nomura (2021) によって種に昇格している。

ツブゲンゴロウ亜科 Subfamily Laccophilinae

ツブゲンゴロウ族 Tribe Laccophilini

日本産は 2 属で, とともに兵庫県に分布。

ツブゲンゴロウ属 Genus *Laccophilus*

日本産は現在 14 種に増え, 兵庫県産は以下の 6 種である。

2 3. ツブゲンゴロウ *Laccophilus difficilis* Sharp, 1873

【文献記録】Takasago [M. Takizawa, 1932a]; 神戸再度山 [高橋寿郎, 1940]; 武庫村, 多井畑, 垂水 [関公一, 1945a]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 洲本市安平町 [堀田久, 1959]; 川西市見野, 大和 [仲田元亮, 1978]; 宝塚市売布ガ丘, 香合新田 [芦田久, 1993]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 神戸市烏原, 山の街, 道場, 広野, 白川, 多井畑, 下谷上, 押部谷, 藍那, 三木市細川, 三木山, 吉川町奥山, 加西市畑 [高橋寿郎, 1997]; 洲本市三熊山 [高橋寿郎, 1998]; 加西市青野ヶ原, 三田市大磯, 神戸市灘区六甲, 神戸市北区道場町静ヶ池, 神戸市北区緑町山の街, 神戸市東垂水, 西宮市甲東園, 川西市見野, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町下阿古谷, 猪名川町上阿古谷, 猪名川町内馬場, 猪名川町木間生, 宝塚市 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】2exs., 加西市青野ヶ原, 11-VIII-1990; 20exs., 小野市青野ヶ原, 23-IX-2023; 1ex, 美囊郡吉川町湯谷, 26-V-1999, 山本勝也採集; 4exs., 三田市下相野, 5-VI-1993; 4exs., 明石市大久保, 24-V-1987; 3exs., 神戸市北区八多町, 22-III-1987; 7exs., 神戸市北区大沢町, 18-XI-1990; 4exs., 神戸市北区山田町, 20-II-1987; 3exs., 神戸市北区山田町藍那, 30-IV-1997; 4exs., 神戸市六甲山かわうそ池, 9-V-1987; 5exs., 神戸市再度山, 20-IX-1987; 1ex, 姫路市家島町男鹿島, 18-VII-1989.

北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布している。県内でも中南部に広く記録が見られ離島では家島諸島で確認されている。本属では最も分布域が広く個体数も多かったが, 最近では見る機会が少なくなった。

2 4. コウベツブゲンゴロウ *Laccophilus kobensis* Sharp, 1873

【文献記録】Kobe (Hiogo) [D. Sharp, 1873]; Akashi, Misaki, Takasago [M. Takizawa, 1932a]; 武庫村 [関公一, 1945]; 宝塚市内 [高橋寿郎, 1997]; 加西市青野ヶ原 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】2exs., 美方郡香美町村岡区祖岡, 22-X-1994; 3exs., 加西市青野ヶ原, 5-V-1990; 3exs., 加古川市今池, 6-VI-1992; 15exs., 小野市青野ヶ原, 21-III-1990; 1ex, 三田市木器, 23-IV-1990.

本州, 四国, 九州と南西諸島に広く分布しているが, 生息地は多くない。神戸が基準産地で現在でも播州平野には生息している。環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に, 兵庫県 RDB(2022) でも要調査のカテゴリーに選定されている。

2 5. ニセコウベツブゲンゴロウ *Laccophilus yoshitomi* Watanabe et Kamite, 2018

【文献記録】神戸市山田町藍那 [森正人・脇村涼太郎, 2019]

【標本記録】1ex, 神戸市北区山田町藍那, 30-IV-1997(報告済). 石川県金沢市を基準産地として新種記載されたもので, 北陸や東北地方に分布するとされていたが, 森ほか (2019) により神戸市でも発見された。前種に似ているが, 前種が比較的開放的な水域に生息するのに対し, 本種は少し薄暗いような水域で見つかり, 生態的に棲み分けしている可能性がある。

2 6. ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisii* Sharp, 1873

【文献記録】Kobe [D. Sharp, 1873]; Takasago [M. Takizawa, 1932a]; 神戸市多井畑, 伊丹市, 猪名川 [関公一, 1945a]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 宝塚市内, 神戸市多井畑, 太山寺, 下谷上, 垂水, 伊川谷前開, 三木市口吉川笹原, 吉川町奥原, 龍野市神岡町 [高橋寿郎, 1997]; 洲本市三熊山 [高橋寿郎, 1998]; 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 加西市青野ヶ原, 三田市木器, 高砂市ミツビシ池, 西宮市甲東園, 猪名川町内馬場, 明石市 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】3exs., 小野市青野ヶ原, 15-III-1992; 1ex, 小野市小田課椋谷 6 号池, 12-VII-2008, 安井幸男採集; 8exs., 加西市福居町, 30-IV-2018, 脇村涼太郎採集; 5exs., 三田市木器, 19-IV-1987; 5exs., 神戸市北区八多町, 16-II-1987; 10exs., 神戸市六甲山ひょうたん池, 22-IV-1987.

本州, 四国, 九州に広く分布しているが, 生息地は多くない。県内では南部地域での記録が多く, また淡路島にも分布している。環境省のレッドリスト (2020) では絶滅危惧 II 類 (VU) に, 兵庫県 RDB(2022) でも要調査のカテゴリーに選定されている。タテナミツブゲンゴロウは異名。

2 7. サザナミツブゲンゴロウ *Laccophilus flexuosus* Aubé, 1838

【文献記録】Kobe [Brancucci, 1883]

Brancucci (1883) は本種を Kobe から記録しているが、その後久しく日本からの記録が無く、阿部 (1990) が沖縄から発見したのを契機に、南西諸島に広く分布していることがわかった。本州では Brancucci (1883) 以降の記録や情報が全くないことから、中根 (1991) は本州における分布を疑問としている。しかし、南西諸島が分布の中心と思われていたアマミマルケシゲンゴロウが本州でも発見された事例 (岡田ほか, 2020) や他種の分布状況を勘案すると、県内にも生息している、または過去に分布していた可能性も否定できない。ナミスジツブゲンゴロウは異名。画像は沖縄産。

2 8. シャープツブゲンゴロウ *Laccophilus sharpi* Régimbart, 1889

【文献記録】Takasago [M. Takizawa, 1932a]; 神戸再度山 [高橋寿郎, 1940]; 神戸市多井畑, 伊丹市, 猪名川 [関公一, 1945a]; 氷上郡 [山本義丸, 1958]; 川西市大和, 笹部 [仲田元亮, 1978]; 神戸市白川, 妙法寺, 多井畑, 太山寺, 押部谷木見, 岩谷峠, 伊川谷前開, 三木市細川, 口吉川笹原, 志染, 吉川町奥原, 加西市畑, 小野市来住町, 龍野市神岡町 [高橋寿郎, 1997]; 洲本市三熊山 [高橋寿郎, 1998]; 加西市青野ヶ原 [森正人・北山昭, 1993, 2007]; 加西市青野ヶ原, 家島町西島, 神戸市垂水, 神戸市山の街, 西宮市甲東園, 川西市大和, 北淡町育波 [初宿成彦, 2011].

【標本記録】1ex, たつの市御津町 (揖保川), 19-VIII-1994; 3exs., 加西市青野ヶ原, 11-VIII-1990; 9exs., 神崎郡福崎町, 16-VIII-1991; 3exs., 三木市吉川町奥畑, 9-XI-1994; 5exs., 姫路市的形, 27-IX-1989; 3exs., 三田市下相野, 5-VI-1983; 1ex, 神戸市北区八多町, 8-VIII-1987; 10exs., 洲本市五色町先山, 23-V-1991.

北海道, 本州, 四国, 九州と南西諸島に広く分布しているが、最近では減少傾向が著しい。県内では南部地域での記録が多く、淡路島にも記録があるが、近年はほとんど見かけない。そのような傾向を反映してか、環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に選定されている。

キボシツブゲンゴロウ属 Genus *Japanolaccophilus*

日本固有属と思われていたが、最近韓国からも記録された。以下の1種で構成される。

2 9. キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus niponensis* (Kamiya, 1939)

【文献記録】新温泉町栃谷 [森正人・西野洋樹, 2022];

【標本記録】24exs., 美方郡新温泉町栃谷, 9-X-2021, 西野洋樹採集。(報告済)

北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に広く分布しているが生息河川は限られる。兵庫県では従来記録や情報が

無く、分布可能性の高い種として調査を継続していたが、最近になってようやく県北部の小河川で生息が確認された。環境省のレッドリスト (2020) では準絶滅危惧 (NT) に、兵庫県 RDB(2022) でも C ランクのカテゴリーに新規選定されている。

以上、兵庫県内のゲンゴロウ類のうち、コツブゲンゴロウ科からゲンゴロウ科ツブゲンゴロウ亜科まで 29 種についての記録を整理して報告した。このうち、サメハダマルケシゲンゴロウについては兵庫県初記録である。

標本やデータ, 資料・情報を提供して頂いた, 市川憲平, 北山健司, 故) 北山 昭, 松本英明, 中峰 空, 西野洋樹, 岡田亮平, 岡野良祐, 下野誠之, 脇村涼太郎, 渡部晃平, 山本勝也, 安井幸男の各氏, 一部の標本撮影をして頂いた箕島悠介氏, 有益な情報提供を頂いた中島淳氏, 渡部晃平氏に厚くお礼を申し上げる。

残りの, セスジゲンゴロウ亜科からゲンゴロウ亜科までの整理は次号に報告する予定である。

【引用文献】

- 阿部光典, 1990. “幻のゲンゴロウ” を沖縄で発見す. 甲虫ニュース, (91): 5-7.
- 芦田久, 1993. コツブゲンゴロウ科, ゲンゴロウ科. 宝塚の昆虫 II, 宝塚市教育委員会.
- Brancucci M., 1883. Revision des especes est-palearctiques, orientales et australiennes du genre *Laccophilus*. Ent. Arb. Mus. Frey 31/32, 318-420.
- 檀野将平, 2022. 兵庫県姫路市南部で採集した甲虫類の記録. きべりはむし, 45(1): 3-36.
- 林成多, 2020. ケシゲンゴロウ幼虫の飼育観察. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 51-59.
- 林成多・初宿成彦, 2003. 大阪市立自然史博物館収蔵のゲンゴロウ類標本: 特に希少種および絶滅危惧種について. 大阪市立自然史博物館研究報告第 57 号: 11-20.
- 林靖彦ほか, 1995. 1989 年度, 雨石山に於ける甲虫相調査報告書. KASUGA, 11: 3-7.
- 堀田久, 1959. 淡路島産甲虫類目録 (2). 兵庫生物, 3(5): 376-378.
- 兵庫県, 2023. 兵庫県版レッドリスト 2022 年版 (昆虫類). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022.
- 市川憲平・大庭伸也, 2015. 兵庫県西部におけるタガメとゲンゴロウが繁殖する池と水田の水生昆虫相. 環動昆, 26(3): 89-93.
- 稲畑憲昭, 2016. サメハダマルケシゲンゴロウの日本からの初記録. SAYABANE N.S., (21): 46-47.

- 一般社団法人日本昆虫学会, 2022. 日本昆虫目録 第6巻 鞘翅目 (第1部). 131pp. 権歌書房.
- 亀澤洋・渡部晃平, 2018. 埼玉県からのサメハダマルケシゲンゴロウの記録とマルケシゲンゴロウの記録抹消. 寄せ蛾記, (170): 39.
- 神奈川県立生命の星・地球博物館, 1995. 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立博物館自然部門資料目録第8号: 1-66.
- 環境省, 2020. 環境省レッドリストの公表について. <https://www.env.go.jp/press/107905.html>.
- Kitayama, A., Mori M., Matsui E., 1993. A new species of *Hydrovatus* of Japan. *Akitsu*, (137): 1-4.
- Kudo, Y. & Kojima, H. 2010. Observation of the respiratory strategy of *Neohydrocoptus bivittis* (Coleoptera, Noteridae). *Elytra*, 38: 85-86.
- 牧田習・中安慎太郎, 2011. 兵庫県豊岡市祥雲寺の水生昆虫. きべりはむし, 33(2): 1-3.
- 森正人, 2013. 微小水生甲虫の生息環境について—ミジンダルマガムシとナガマルチビゲンゴロウの例—. SAYABANE N.S., (9): 34-36.
- 森正人・北山昭, 1993. 図説日本のゲンゴロウ. 文一総合出版, 217pp.
- 森正人・北山昭, 2007. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 第2刷, 文一総合出版, 231pp.
- 森正人・脇村涼太郎, 2019. ニセコウベツブゲンゴロウ, 兵庫県神戸市の記録. 月刊むし, (580): 40-42.
- 森正人・西野洋樹, 2022a. 兵庫県初記録のキボシツブゲンゴロウ. 月刊むし, (614): 47-48.
- 森正人・西野洋樹, 2022b. 兵庫県におけるマルチビガムシとゴマダラチビゲンゴロウの記録. きべりはむし, 45(2): 75-76.
- 村上大介, 2024. 滋賀県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. SAYABANE N.S., (53): 38-39.
- 中村涼・菅谷和希・佐野真吾・渡部晃平, 2023. 千葉県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録とマルケシゲンゴロウの記録削除. SAYABANE N.S., (49): 19-20.
- 中根猛彦, 1991. *Laccophilus flexuosus* の記録について. 甲虫ニュース, (93): 5.
- 仲田元亮, 1978. ゲンゴロウ科. 能勢の昆虫 (1): 41-47.
- 仲田元亮, 1979. 「能勢の昆虫」その後 (2). きべりはむし, 7(2): 16-28.
- 岡田亮平・渡部晃平・森正人・稲畑憲昭, 2020. 本州からのアマミマルケシゲンゴロウの発見と生息環境. SAYABANE N.S., (40): 44-46.
- 岡野良祐・西本雄一郎, 2021. 兵庫県におけるキボシチビコツブゲンゴロウおよびクロホシコガシラミズムシの初記録. 月刊むし, (611): 54-55.
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内1区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター.
- 大倉正文, 1955. ゲンゴロウ科. 原色日本昆虫図鑑(上)・甲虫編, 保育社.
- 佐野真吾・内田大貴・新中健斗・渡部晃平, 2019. 群馬県および茨城県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. SAYABANE N.S., (34): 22-23.
- 佐藤正孝, 1958. キボシケシゲンゴロウの分布と2新型について. 昆虫学評論, 9(1): 13-14.
- 澤田研太・岩田朋文・惣名実, 2022. 富山県におけるマルケシゲンゴロウ属の記録総括と現況. 富山市科学博物館研究報告, (46): 19-26.
- 関公一, 1945a. 阪神地方のゲンゴロウ科. 昆虫世界, 49(569): 30-33.
- Sharp, D., 1873. The Water Beetles of Japan. *Trans. ent. Soc. London*, 1: 45-67.
- 初宿成彦, 2011. ゲンゴロウ上科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫目録 (1), 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第43集.
- 末長晴輝・渡部晃平・山地治, 2017. 岡山県におけるサメハダマルケシゲンゴロウとオオマルケシゲンゴロウの初記録. SAYABANE N.S., (28): 51-52.
- 高橋寿郎, 1940. 神戸再度山付近産の甲虫目録. 昆虫世界, 44(510): 14-17.
- 高橋寿郎, 1995. 兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録 (1). きべりはむし, 23(2): 1-9.
- 高橋寿郎, 1996a. 兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録 (2). きべりはむし, 24(1): 1-21.
- 高橋寿郎, 1996b. 兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録 (3). きべりはむし, 24(2): 14-21.
- 高橋寿郎, 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録 (1). きべりはむし, 25(1): 2-30.
- 高橋寿郎, 1998. 淡路島甲虫目録 (1). *Parnassius*, (47): 1-9.
- Takizawa, M., 1932a. The Dytiscidae of Japan, part. I. *Ins. Mats.*, 7(1/2): 17-24.
- Takizawa, M., 1932b. The Dytiscidae of Japan, part. II. *Ins. Mats.*, 7(4): 165-179.
- 戸田尚希, 2017. サメハダマルケシゲンゴロウが愛知県にも分布. 佳香蝶, 69(271): 47.
- Ueno, S., 1957. Blind aquatic beetles of Japan, with some accounts of the fauna of Japanese subterranean water. *Arch. f. Hydrobiol.*, 53: 250-295.
- 渡部晃平, 2016. 石川県におけるマルケシゲンゴロウ属の分布. SAYABANE N.S., (24): 53-56.
- Watanabe K., 2020. Biological Notes on *Hyphydrus laeiventrtris* Sharp, 1882 (Coleoptera, Dytiscidae).

Elytra, 10(2): 351-355.

Watanabe K., & O.Biström, 2022. A new species of the genus *Hydrovatus* Motschulsky (Coleoptera: Dytiscidae) from Japan. The Coleopterists Bulletin, 76(1): 115-121.

渡部晃平・保科英人, 2016. 福井県におけるサメハダマルケシゲンゴロウの記録と生息地保全に向けた対応. SAYABANE N.S., (24) : 33-35.

渡部晃平・富沢章・稲畑憲昭, 2016. 本州におけるサメハダマルケシゲンゴロウの初記録. SAYABANE N.S., (23) : 15-16.

八木剛, 2000. めざせ 50 種! 兵庫のゲンゴロウ. きべりはむし, 28(2) : 39-41.

山本義丸, 1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録. 氷上の自然 第3集.

Yanagi, T. & S. Nomura, 2021. A New Species of the subterranean Diving Beetle genus *Morimotoa* (Coleoptera, Dytiscidae) from Tokushima prefecture, Japan. Elytra N.S., 11: 87-93.